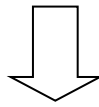


【2】行動分析および【3】支援例

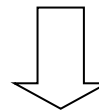
平成 年 月 日 () 年 組 番 氏名

①	聞くことが苦手な場合
行動分析	1 教師の指示や話のテンポが速いと理解できない
	2 語彙力や知識の不足のため、話の内容が理解できない
	3 話し手が次々に変わるとその変化に追いつけず、内容が理解できない
	4 具体的な説明や指示がないと分からない
	5 相手の意見を受け入れることができず、従うのが苦手である
	6 注意集中が困難で、長い説明が分からない



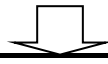
支援例	ア 例示や絵を示して内容が分かりやすくなるように工夫する
	イ 話す内容の大まかな流れをプリントにして渡す
	ウ 指示を出すときは、一回で一つの指示にとどめる
	エ 長い説明は避け、必要な情報を「短く・はっきり・ゆっくり」話す
	オ 指示語を使わないで、できるだけ具体的な指示を出す(例 あれ片付けて→ボールを籠にしまって)
	カ 話をする前に、生徒に呼びかけやアイコンタクトをとり注意をひきつけてから話す
	キ 話し終わった後に、生徒に話の内容を確認する
	ク 話を聞く場所は雑音や他の刺激の少ない環境にする
	ケ メモを取る習慣をつけさせる
	コ 話した内容・連絡事項などを板書しておく
	サ 本人の意見を聞いてから、吹き出しを使ったメモなどを活用してこちらの意見を伝える
	シ 本人が理解している言葉を使う
	ス 情報機器(ICレコーダー等)の活用をする

②	話すことが苦手な場合
行動分析	1 緊張しやすい(失敗経験が多く、話し合いなど苦手意識が強い)
	2 質問に適した言葉をすぐに選ぶことができない、考えを相手に伝えるのに時間がかかる
	3 興味関心に偏りがあり、他者との共通の話題に乏しい
	4 人前で話すことそのものに不安がある
	5 自分が伝えたいことを整理して話すことができない



支援例	ア 生徒が話しているときはじっくりと話を聴く
	イ 話の内容を認め、話そうとしていることを適切な言葉で言い換えて整理する
	ウ 「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どのように」「どうした」という5W1Hを提示し、それに合わせて話をさせる
	エ 生徒が大勢の人前で話すときは、あらかじめ話すことを書いておいてから話すようにさせる
	オ 休み時間などに、教師が生徒の好きな話題について話し掛け、一緒に話す機会をつくる
	カ 教科担任は本人が答えられるかどうか見定めてから指名する
	キ 周りの生徒たちと一緒に相手を傷つけない断り方や話し方を学ばせる

⑨	衝動性が強い場合
行動分析	1 後先考えずに思いつきで行動してしまう
	2 集中できる時間が短い
	3 自分の行動を客観的に振り返るのが難しいため、状況を理解して適切な行動をとるのが難しい
	4 他者の視点に立ったり、場の雰囲気を読んだりすることが苦手で、協調性に欠ける
	5 感情のコントロールが難しい



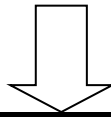
支援例	ア 望ましい行為、定着させたい行為は紙に書いて見える所に張っておくなど、生徒の理解のレベルにあわせて提示する
	イ 不適切な言動を示した場合は自ら気付くことができるように個別の指導をする
	ウ 不適切な表現をした場合、代わりとなる表現の仕方を教える
	エ ささいなことはできるだけ許容して、よい場面があればその場で認める
	オ 行動のルールや約束を前もって一緒に決め、約束が守れた時はそのことを評価する
	カ ルールはできるだけ明確で、生徒に合わせてできるものにする
	キ できごとを図示して、適切な言動を考えさせる

⑩	人間関係がうまくつけれない場合
行動分析	1 言葉の背景の意味が分からないため、何を言われているか分からず、冗談が通じない
	2 相手の表情や態度を読み取ることが難しいため、相手の感情や立場を理解できない
	3 相手の立場に立って考えることが難しいため周りの人が困惑するようなことを言うてしまう
	4 ルールが理解できず、曖昧な状況だと何をするか分からず、自分勝手にやってしまう
	5 コミュニケーションが双方向であることが理解できず、一方的に話をする
	6 内容が分からないときに質問することができない、もしくは聞き方が分からない
	7 自分の主張を通そうとするため共感性に乏しい
	8 感情のコントロールができず、カッとなったり意欲を失ったりする
	9 マイペースで人に合わせるのが苦手である
	10 失敗体験が多く、自尊感情が乏しく自信がもてない



支援例	ア 分からないことや聞きたいことがあった時には教師や友達に気軽に聞けるようなクラスの雰囲気づくりをする
	イ ちょっとしたことでも自信を失いがちなので、失敗や間違いをあからさまに指摘せず、成功に導くよう見守る
	ウ 否定的な言動について過敏なので、できるだけ長所を見つけて伝える
	エ その生徒の特徴を理解している生徒をグループに入れる
	オ グループ内での役割分担をはっきりとさせ、その生徒に役割や仕事を理解させ、できたら褒める
	カ グループや集団の活動は、本人の気持ちを大切にしながら、本人なりのやり方で参加させ、しつこい働き掛けは避ける
	キ 相手を傷つけるような言動があったときは後で教師が話を聞き、相手の気持ちを考える機会をつくる
	ク 比喩やたとえを使う場合は分かりやすい言葉で補足する
	ケ 定期的に教師が生徒と個別に話をする機会をもち、気持ちを受け入れながらよりよい関係づくりについて考える
	コ 以下のコミュニケーションスキルの練習を、教師やカウンセラーの指導の下に行う a 笑顔で接する b 自己主張を抑え、聞き役になる c 上手に相づちをうつ d 相手の長所をみつけて褒め上手になる e 相手からの依頼を上手に断る練習をする f 場面に応じた聞き方を具体的に教える g 相手の話を聞いて自分の要望も言うなど、自分のニーズと相手のニーズとのバランスをとる方法を練習する
	サ 生徒の実態を踏まえたルールを設定し、分かりやすく提示する
	シ 自分を客観的にとらえ、相手の立場や気持ちを理解するためにロールプレイを行う
	ス 周りの様子を分かりやすく言語化し、前後関係を関連づけながらどうすればよいかを分かりやすく伝える
	セ パニックを起こしたら保健室や相談室など落ち着ける場所で静かに休ませる
ソ パニックになった時に関わるキーパーソンを決めておく	
タ パニックのきっかけになった出来事を教師と一緒に振り返る機会をもつ	

⑪	こだわりが強い場合
行動分析	1 自分が得意な分野や習慣化した行動に対してこだわりが強い
	2 予定が変更されると活動の見通しがもちにくい
	3 言葉の説明だけでは、理解できない(聴覚活用が苦手)
	4 特定の分野の知識は優れている
	5 思いこみが強い



支援例	ア 生徒がこだわっている行動や物事がどのようなものかよく話を聞いて受容をする
	イ 得意なことを伸ばし役立てることを考える
	ウ こだわりを個性の一つだと理解し、支障のない範囲でうまく合わせて受け入れる
	エ 生徒がやり直しややり残しにこだわっている場合は、その気持ちを受容して、時間と場所が確保できればそれに取り組むことができる機会をもつ
	オ 言葉だけでなく文字やイラストなども使って、予定はなるべく前もって伝える
	カ ルールを守ることにこだわり、他人を許せない場合は、生徒と一緒にその状況を話し合う機会をもつ
	キ 考えの変更を迫るのではなく、周囲の者が別の視点を与えたり気持ちの切り替えをしたりするなどして他の考えや手段があることを提示する

⑫	その他の場合
行動分析	1 感覚過敏(例えば音や触覚)がある
	2 運動がうまくできなかつたり、身体の動きがぎこちない
	3 手先が不器用で細かな作業が難しい
	4 自分を安定させるため、ぶつぶつ言うなどの行動をとる
	5 姿勢の保持ができない



支援例	ア 感覚過敏がある場合は、生徒の状況をよく観察し、その辛さを理解し生徒には無理をさせない
	イ 嫌な刺激を取り除く
	ウ 嫌な刺激をどれだけ我慢すればよいのか見通しを示す
	エ 本人、家族の了解のもと生徒が感覚過敏を抱えていることを周囲の生徒に伝え、理解してもらう
	オ 感覚過敏で辛い場合、生徒から教師へ申し出るように教える
	カ 生徒の運動能力を見極め、生徒のできる範囲の個別の課題や役割を与え、実践させ、評価をする
	キ 図や絵を描く、はさみなど道具を使う、文字を書くことに完璧さを求めない
	ク ぶつぶつ言うときのパターンをよく観察し、生徒から事情を聞くことで、生徒の抱える不安を理解し受容する
ケ 休憩を入れ、ストレッチなどを行い正しい姿勢を意識させる	